

令和4年度 第2回 大東市環境審議会 会議録

- 日 時 令和4年10月26日（水）10時00分～12時00分
- 場 所 大東市立市民会館4階 大会議室
- 出席委員 花田会長、三ツ川副会長、玉置委員、北田委員、高橋委員、河村委員、
中原委員、木村委員、吉村委員、東野委員、濱崎委員、花嶋委員、
田村委員、葛城委員
※委員名簿掲載順
- 欠席委員 赤田委員
- 事務局 市民生活部総括次長 竹田
環境課 課長 吉原 課長補佐 上村、武内
上席主査 道木、戸田 主査 泉、山崎
- 傍聴者 無し
- 当日次第
 - 1 開会
 - 2 委嘱状交付
 - 3 市長あいさつ
 - 4 委員紹介
 - 5 議事
 - 議事1：会長及び副会長の選出
 - 議事2：第2期大東市環境基本計画（令和4年度の取組み）
 - 議事3：第5期大東市一般廃棄物処理基本計画（令和4年度の取組み）
 - 議事4：第4期大東市地球温暖化対策実行計画（令和4年度の取組み）
 - 議事5：その他
 - 6 閉会

○ 配布資料

1. 会議次第
2. 資料一覧
3. 委員名簿
4. 配席図
5. 【資料1】大東市環境審議会規則
6. 【資料2】第2期大東市環境基本計画 令和4年度の実施計画
7. 【資料3】第5期大東市一般廃棄物処理基本計画 令和4年度の実施計画
8. 【資料4】2022年度だいたいのエコアクションプラン

1 開会

2 委嘱状交付

3 市長あいさつ

4 委員紹介

5 議事

議事1：会長及び副会長の選出

<意見等>

議長	大東市環境審議会規則第2条第4項の規定により、委員の互選によって定められているがいかがか。
委員	事務局一任の声
事務局	事務局一任という声があったので提案する。学識経験豊富な花田委員が適任であると考えがいかか。
委員	異議なしの声
議長	異議なしとのことなので花田委員に会長をお願いする。
会長	副会長の選出を行う。 大東市環境審議会規則第2条第4項の規定により、委員の互選によって定められているがいかがか。
委員	事務局一任の声
事務局	事務局一任という声があったので提案する。三ツ川委員が適任であると考えがいかか。

委員	異議なしの声
会長	異議なしとのことなので三ツ川委員に副会長をお願いする。

議事 2：第 2 期大東市環境基本計画（令和 4 年度の取組み）

<意見等>

事務局	【資料 2】について説明
委員	「みんなで環境学習に取り組むプロジェクト」に、シニア総合大学は含まれないのか。環境学部の記載はあるが、観光学部も入れられるのではないかと思う。
委員	「川を大切に作るプロジェクト」について、恩智川クリーンリバープロジェクトがあるが、委員は携わっているのでは。
委員	市民団体もたくさんおられるが、ごみ量調査などを実施する予定。私が関わって 7～8 年は続いているが、ここ 2 年新型コロナウイルスの関係で開催できなかった。その前にも雨天中止が度々あり順調にできなかったが、今年は晴れて欲しいと願う。3 年前、4 年前は住道駅前でごみを引き上げて調査した。今回は末広公園で周辺のごみ量を調査することを考えている。
委員	市民の意識が喚起される大切な取り組みだと思うので、ぜひ市民を刺激するような内容にしていだけたらと思う。
委員	以前は学生達とポンプ場のところで行っていたが、市民に見てもらえるように皆さんの提案で今の形が実現した。
委員	反響が非常に大きかったと聞いているので是非お願いしたい。
委員	例年行われていた環境フェアが新型コロナウイルスの影響で中止になってしまい残念。コロナが治まった時には大々的に実施して欲しい。今回恩智川クリーンリバープロジェクトも末広公園で行うということで形を変えた実施なので、成功するように私が所属するみどり会としても協力させてもらおう。
事務局	環境フェアの話が出たが、今回の恩智川クリーンリバープロジェクトは環境フェアの要素も含めている。例年、松の鼻橋の河川敷のごみの清掃をしていただいていたが、河川のごみというのは陸上由来ということもあり、今回は末広公園で今まで参加できなかった方たちにも広く参加していただけるような形で実施するのでご参加いただきたい。

議事 3：第 5 期大東市一般廃棄物処理基本計画（令和 4 年度の取組み）

<意見等>

事務局	【資料 3】について説明
委員	従前は、家電リサイクル法対象品 4 品目については、リサイクル券を持って直接持ち込むか、家電リサイクル引き取り協力店に直接お願いするということで費用も記載されているが、宅配回収のサービスが行われた場合の費用はどれぐらいになるのか。
事務局	費用面ではおそらく自宅まで宅配で来てもらうということなので、少し上がるかと思われる。
委員	来年から実施するということか。
事務局	今年度中の予定である。
委員	費用は分からないのか。
事務局	資料 3 の 2 枚目の裏面をご覧ください。左側にリサイクルと書いているが、これはごみ収集カレンダーのコピーで、リサイクル品目とその大きさによってリサイクル料金がそもそも決まっている。これに関しては、例えばテレビの何インチ以上はいくらと全国共通で決まっている。右側の協力店に依頼する場合の料金というのが町の電気屋さんにお支払いする料金と、リネットジャパンに回収に自宅まで来てもらう際の料金で、昨日オンラインで会議をしてリネットジャパンに回答をもらえたばかりだが、購入した家電リサイクル引き取り協力店に依頼をした場合は、もしかするとその協力店に依頼をした方が安くしてもらえるかもしれない。依頼する協力店で購入してないのに処理だけをお願いする場合は、電気屋さんも商売なので、全く取引のない方より若干費用がかかり、この場合もしかしたらリネットジャパンがご自宅まで来てくれる方が安くなる場合もあるかもしれないという回答であった。リネットジャパンに依頼する場合でも最低限のリサイクル料金はかかってくる。そしてプラスアルファで搬入費用がかかってくる。ご自宅の中まで来て運び出してくれる費用を選ばれるのか、それとも少しでも安くするために自分で持って行かれるのかを選択していただく余地はあると思う。
委員	資料にある QR コードを読み込んでみると、ホームページがなくてログイン画面がでる。書かれている URL もない。4 月までにはどうにかするかかもしれないが、この状態でどんどん先に進めてしまうというのはどうなのかと思う。市がお勧めするというにはまだ中身が出来上がっていないのではないのか。

事務局	資料３は、来年度の広報誌に向けて、リネットジャパンからいただいた案の状態である。今後リネットジャパンと正式に協定を結んだ後に、正式な媒体の準備をした上で市民さんに提供していくという段取りをしている。これそのものが実際の実稿になるわけではない。
委員	いずれにしても、新たにリネットジャパンが絡んでくるときに、従前との比較をし、どこがどう違って、市民の方にプラスになるからリネットジャパンに入っていただくという流れだと思うが、今の段階でそこがはっきりしないのできっちりされた方が良いのかもしれない。導入を急ぐよりも、良かれと思って導入されることだと思うので、良いのであれば導入すれば良いのだが、少し心配だというご意見が出た。しっかり受け止めていただければと思う。
委員	リネットジャパンと佐川急便がやるのだろうが、それにしてもスキームが出来上がっておらず、市役所としては単に広報誌に載せるだけだから費用はかからないかもしれないが、相手方にとっては広報費用と市のお墨付きというすごいメリットがあるわけなので、そこで相手の言う通りに乗ってしまって良いのか、交渉の余地はもう少しあるのではないかなと思う。費用がいくらになるとか、標準的にこのぐらいというような話などをもう少しきちんと詰めた方が良いのではないかな。交渉が必要だと思う。相手の言う通りにやれば良いという話ではないような気がする。
委員	今のご意見、全くごもっともだと思うので、導入の前にしっかり調整して欲しい。
委員	回収の前に段ボールに梱包すると記載があるが、大きなテレビを梱包する段ボールを手に入れることは可能かどうか。
事務局	今見られている資料のごみ収集カレンダーのコピーは、今の宅配回収のことで、パソコンと小型家電の段ボールに入るサイズの物の回収となっており、今議論している家電４品目については、段ボールには入らないのでそのままの引き取りになっている。
委員	梱包など用意はしないといけないのか。
事務局	今分かっているのは、既にごみ収集カレンダーに載せている小型の家電については梱包してということで、大型の家電についてはまだ詳しくは書いてないが、恐らく梱包は必要ないと思われる。このことも含めて確認していきたい。
委員	費用もそうだが、出す方が何をしないといけないかということと、現行との比較を分かりやすくお見せすることは最低限必要だと思うのでよろしく願いたい。

委員	今年度中にという話だったが、タイムスケジュールとしてまだまだ確認しないといけないこと、詰めないといけないことがあり、どうしても今年度中にスタートしないといけない理由や流れなどあるのか。
事務局	リネットジャパンのサービスが国の認可を受けて全国的に展開するということは決まっているようで、大東市で協定を結ぶのは、個別に電話受付のサービスをするかどうかという部分である。
委員	リネットジャパンは、パソコンや小型家電では実績があったと聞いているが、大型家電を従来の家電リサイクルのルートに乗せるのか、自社が独自の新工場を持ってリサイクルされるのか、その辺はどのような流れになっているのか。
事務局	昨日のオンライン会議で、環境省とリネットジャパンがしっかり調整をして事業をスタートするところにたどり着き、自社で工場を持つてするというのではなく従来のルートですということの確認はできている。 どうしても今年度中にしないといけないのか、という点では、先ほど委員の意見でもあったように、事務局としては、一番良いところというのがスマートフォンで申し込みができて、家の中まで来て運び出してくれるというのが、若い世代の方にとって便利なのだろう。高齢者にとっても運び出すのが大変だということで便利である。家の中まで産廃業者が入るということが法律上問題あるというところをリネットジャパンがしっかりと整理されたと聞いたので、少しでも市民の方にとって良い方法であれば、事務局としては進めたいという思いでご提案させていただいているだけであって、何が何でもリネットジャパンと手を組んで今年度中にしたいという意味ではない。 今回いただいたご意見をしっかりと受け止めて、サービスの内容とこれまでの内容との比較を精査して、分かりやすくごみ収集カレンダーの方に載せていきたい。その結果として4月スタートになることも事務局としては問題ないと考えており、混乱がないように進めていきたいと考える。
委員	市が提携しなければできない事業ではないように考える。つまり、単純に若い市民が検索して申し込みば、それはそれで成り立つような仕組みなのではないか。
事務局	おっしゃる通り。何が提携するメリットかという点、大東市の専用の電話番号をもらえるということ。提携しなくとも、こんなサービスがあり、スマートフォンから申し込みができ、インターネットでできるということだけをご案内するのも一つだと思う。協定を結ぶことに

	よって、大東市民の方はこの番号にかければ、高齢の方でも電話で申し込みができるというのがメリットである。
委員	もちろん先行するリネットジャパンが最初にいろんな手続きをして大変だったからということで、先行者のメリットがあっても良いと思うが、それにしても市がお墨付きを与えるということについて、もう少し精査する必要があるのではないかと。若い人については、そういう情報があれば、電話ではなくスマートフォンで登録して行う方法がすぐに流行ると思うので、そんなに急がなくても良いのではないかと。なぜ、リネットジャパンという一事業者だけにお墨付きを与えるのかということについて、良くないというわけではないが、そこまでやらなくても良いのではないかと。思う。
事務局	委員がおっしゃるように、リネットジャパンだけではないと思っている。今回なぜ考えたのかというと、ごみ収集カレンダーにも掲載している家電リサイクル引き取り協力店が市内に何店舗かあるが、広報誌を更新するために来年度も掲載して良いかと問い合わせする際に、来年度は外して欲しいという声を結構いただくので、代替りのものを模索していた状況からである。だからと言って急ぐことなく、しっかりと精査して進めていきたいと思っている。
事務局	補足させていただくと、今回委員からご指摘があったように一社にお墨付きを与えることへの観点も持っている。今回こういうことを考えさせていただいているのは、協力店が減ってきているということと、現在既にリネットジャパンをご利用されている若い市民の方もおられ、そういう方が付加的に大きな家電製品が出せるということについては、選択肢の一つとして選択肢が増えるということでの利便性が上がるということもあった。今日いろいろと意見をいただいた価格の問題や、行政が行うことについての一定の整理、精査は、きちんと行った上で段階を踏んで進めていきたいと考えている。
委員	ご存じの方もいると思うが、大型家電というのはリサイクル券を購入し、個人がリサイクル券に記入する。ということは、個人が廃棄物の排出者になる。そういうシステムである。例えば、小型のパソコンなどは、リサイクル業者が無料で引き取るのでリサイクル券もいらないしお金もいらない。そういう点でも今回の大型家電については、十分に確認し、検討していただきたい。処理ルートについては従来のルートということで、その点については安心かなと感じた。市民の利便性をいえば、リーズナブルな値段で、市も知っている業者が来てくれるというのは安心感があるのではないかと。私もいらない冷蔵庫が二つあってどうしようか悩んでいる。以前はリサイクル券を買っ

	て大東市のある電気屋さんに持ち込んだ。そこは非常に好意的でリサイクル券があればうちで引き取ると言ってくれ、費用もかからなかった。本当であれば、リサイクル券を買った者は、勇信運輸などの指定引き取り場所まで運ばなければならないので、そういう対応をさせていただいて非常に助かった覚えがある。粗大ごみの有料化についてもそうだが、十分に検討していただきたい。私の思い付きでお話するが、電話番号の件について、例えば、今の粗大ごみの受け付けの電話で、この件についても受け付けをするというやり方もあるのではないかな。トータル的にデータを管理するなど、将来業者を入札にして安いところにさせるのかということも考えられるのかもしれない。どちらにしても、よく検討していただきたい。
委員	ご指摘は本当にごもっともだと思う。一つはリサイクル券を買うというところで、リサイクル法が出来た当時は非常に不法投棄が増えた。出しやすい選択肢を増やすことはあると思うが、先ほどの意見の電話もそうだが、毎週出すというような廃棄物ではない。そういうことを考えたときに、果たして今お考えになられている形が必要なのかどうか。そこから立ち返って、今年度中にやろうとしたが来年度からでも良いかという問題ではなく、このやり方を導入するのかどうかというところまでもう一度考えていただければと思う。
委員	私が実際一番面倒だと思うのは、郵便局へ行ってリサイクル券を買うことである。その業者がリサイクル券を持って来て、その場に出される方に記入してもらうことを代行してあげれば非常にやりやすくなるのではないかなと思う。
委員	家電リサイクル引き取り協力店のところに、「大型家電量販店でも、引き取り可能な場合がございます。」と書かれているが、これも市内にある大型家電量販店に問い合わせ、リネットジャパンの前に近場の市内で引き取ってくれる店を掲載してみてもどうか。
委員	ここに掲載されているのは、買った店が引き取ってくれることだと思う。
委員	そういう意味であれば、そう分かるように記載すべき。そもそも日本経済が膨らんでいく設定だったので、日本国内で家電を作っている設定だったのだが、今日本国内での生産は少ないので、家電リサイクルをすることによって自分たちが次作るときに、なるべくリサイクルしやすい設計をするというようなスキームが壊れつつある状況で、この先家電リサイクル法がどうなるのかということ自体が心配である。家電を買い替える時に引き取ってくれるというのは、つまり輸送を無料にしてくれるというのは、リサイクル券の部分は値引いてくれ

	ないが、どちらにせよ運んでくるので引き取りについては交渉次第で無料にしてくれるということでよくある話である。市内の家電量販店がどうなのかを市として問い合わせし、輸送にかかる費用がいくらなのかを分かった上で、リネットジャパンがお得かどうかということなど判断する必要があるのではないかと思います。
委員	ごみ収集カレンダーを見ていくと、もう少し親切に記載したらどうかなど気が付くところがあるので是非よろしく願いしたい。

議事 4：第 4 期大東市地球温暖化対策実行計画（令和 4 年度の取組）

<意見等>

事務局	【資料 4】2022 年度だいとうエコアクションプランについて説明
委員	取組を進めてくときにエコ責任者とエコ推進員を決めているということと、年に一回研修を行っているということだが、内部監査のようなことはしているか。
事務局	内部監査は行っていない。 各施設からは実績報告をいただいている。年度当初に「省エネ取組計画」を出してもらい、年度末に計画についてどうだったか答えを返してもらっている。達成したかそうでないかを集計したうえで全体の実績報告書で内容をお返ししている。
委員	その省エネ取組計画は指標や、目標値は定めているか。
事務局	エコアクションプランに基づいていくつか項目（パソコンをスリープモードにすると等）を挙げてもらっている。
委員	実績報告といってもどれだけ達成したか分からない状態か。
事務局	できているかできていないかは自己申告という形になっているが、電気等の使用量については実績値を合わせて出してもらっているので施設ごとのその増減は把握できるようになっている。
委員	研修がその機会になるのかもしれないが、施設間や部署間で互いに取組のフィードバックができる場があればよいと思う。というのは、産業大学でも推進員が部署ごとに決まっているが、なかなか効果的に進めるのが難しい。 事務事業編においても、市民サービスと関わるので、やみくもに減ったらいいいのかという話でもない。事業者もそうだと思う。コロナで経済が停滞し、排出量が減りましたというのは喜ばしいことではない。

	このアクションプランを見てみると、事務局側で、こういう風にやろうと思っているということを提示し、報告することの繰り返しだと段々実行が伴わなくなると思う。部署同士での情報交換の仕組みのようなものを考えて、それぞれの取組のフィードバックができればいいなと思う。 京都市は部署や施設間でお互いに別のところにいて内部監査ということをやっている。監査する側もとても勉強になっているという風に見えて思う。 計画を出したからいいやではなくその後もうまく回る仕組みみたいなものを取り入れたらいいのかと思う。
委員	公用車について、電動車の導入は考えているか。
事務局	まだ電動車の導入はない。ハイブリットは一部導入している。 公用車は燃費の良いもの、温室効果ガス排出量の少ないものを選ぶよう温暖化対策実行計画やエコアクションプランで定めている。 購入時は財政当局と環境課との協議が必要との通知も行っている。
委員	委員は様々な自治体をご覧になっていると思うので、公用車や事務事業編の他の自治体の取組事例を教えてほしい。
委員	自身も昨年度府の公用車の担当、電動自動車等の普及の担当をしていた。大阪府はこれまで超低燃費車ということで推進していたが、今は電動車に切り替えている。 大阪府でも公用車購入の際の環境配慮に関する基準はしっかりと決めており、一定基準以上を満たしていれば協議なしで購入可、基準以下のものは環境部局と協議が必要としている。現場から環境部局も財源確保に動いて欲しいとの要望があるので財政部局との調整を行っていく。 大阪府ではカーボンニュートラル推進本部を立ち上げており、そこに公用車のワーキンググループも設置して部局連携を図っている。そこに財政部局も入って進めていきたい。これから大阪府も対策を加速させていくので市町村でも電動車、ゼロエミッション車の導入を検討いただけたらと思う。今後も市町村へ情報提供させていただく。 またエネルギーマネジメントシステム、内部監査の話だが、大阪府庁も10年ほど前にISO14000を取得した。自主管理でマネジメントをまわしている。 エコアクションプランもそうだが、どうしても定性的な取り組みが多くなりがちで定量的なものは難しいと思うが、定性的な取り組みばかりだとルーティンの惰性的な感じになってくる。事務の負担が大きくなる懸念（原課からの問い合わせの対応増加等）はあるが、改善し

	ながらやっていく必要があるかなと府の方でも認識している。 事務負担の軽減を図りながらより実をとれるにはどうすればいいかを考えるのが課題と思っている。 府では内部監査の制度があつて、いくつかピックアップして現場に行きヒアリングを行う。確かに花田会長のおっしゃるような現場の声を聞くことができ、監査する側にとっても良い勉強になる。向こうも緊張感を持てる。環境部局と現場のやり取りする場を設けることは良いと思う。 研修の話も出たが、研修も大事なので大阪府も毎年4月～5月に開催している。
委員	環境部局が行くと対環境部局となってしまう側面があると思う。京都のケースでは施設同士で互いに監査を行っている。ただし手間とコストがかかると思う。
委員	委員がいらっしゃる都市樹木再生センターで作った電気を、市内の学校で使っているというのをニュースで見たのだが、このような取り組みこそ大々的に書くべきではないか。爪に火を点すようなエネルギーの減らし方ではなくて、この温室効果排出係数自体を下げようという取組は非常に重要であり有効である。また市民のみなさんにも知っていただきたいことだと思う。
委員	委員にお伺いしたいのだが、バイオマス発電は、原料を作るところ、発電するところ、発電した電気を販売するところ、それぞれ別の事業者ということになってると思うが、今どれぐらい市内に提供できているか。
委員	我々の会社が都市樹木再生センターで樹木のリサイクルを行っている。リサイクルの方法は、主に、搬入される廃棄物からバイオマス用の燃料、木質の燃料というものを生産している。廃棄物として受け入れるのは、木くずの品目のみで、例えばコンクリートのガラであったり、電子部品の廃棄物等は一切入っていない。木くずのみを受け入れている事業者である。 ここ（都市樹木再生センター）でリサイクルした木質チップを龍間にあるバイオマス発電所で電気に変えている。 出力（発電所の大きさ）は1時間当たり5000kwの送電規模の発電所であり、これは1年間に1万世帯（一世帯2.5人）、2万5千人が使えるぐらいの電気使用量である。 この生産した電気を小売り事業会社を通して大東市内の小中学校であったり公共施設に供給している。 大東市内で発生した木くずをリサイクルして大東市内にある発電

	所で電気を作り、さらにその電気をまた大東市にお返ししている循環を我々は電力の地産地消と言っているが、全国的にも大東市は早くから取り組んでおり、今回、CO₂の削減には有益だとおっしゃっていただいてとてもありがたい。 自身は全国いろいろな発電所に行く機会があり、九州の発電所にも5年ほど勉強で行っていたが、大阪と九州・東北とでは原料が違う。大阪は森林が少なく、山があってもほとんどが広葉樹であり、それに比べて九州や東北は、人工林、杉、ヒノキが多くこういった森林整備から出てくる未利用材（間伐材ともいう）を使った発電所が非常に多い。現在為替の状況で海外からの木質ペレット等の輸入が高コストになっており、国内木材の需要が増えていて材料の取り合いのようになっている。 一方大阪など都心部は、町から出る廃棄物をメインとしており長期的に見ても原料調達は安定し見通しが立てやすいのかなと思う。 今電気の状況はひっ迫していて電力の需給バランスは悪く、この冬も電力が足りない予想をニュース等で耳にすることもあるかと思う。この辺がいずれ解消されたときに今後も大東市含めていろいろな需要家に電気を販売していく中で、市民の方も大東市の取り組みを聞いて、自分も大東市で排出された廃棄物からできた電気を使ってみたい等と広がっていけば大東市にとってプラスになると思う。 工場の見学にお客様が来られた時には、我々も大東市との取り組みをPRしている。今後もSNS等を活用してお互い情報発信していければなと思っている。
委員	欲しがりません勝つまでは、のような後ろ向きなさみしいことばかりではなくて、大東市には前向きな新しい芽があるので、その辺りをもっと強調して作られるとよいかなと思う。新しい再生可能エネルギーを使って取り組んでいるというようなトーンの方が楽しく前向きになれると思う。 また削減する分についても、ただ粛々で行うのではなくて、なぜこのようなことをやっているのか、例えば何故消灯しているのか、なんでこういうことをしないといけないのか、分かるような説明があれば良いと思う。
委員	去年も大東市の電気は地産地消ということで議題にあがっていたと思うが、それに加えて、今市役所の市庁舎の整備の話が決まっていると思う。当然新しく建てる建物もあるし、古い建物については耐震化をするということで全面的にリフォームすると思う。 そうすると今エコアクションプランに挙げられている取組が、今度

	の新しい市役所になった時には取り組むべき内容が大幅に変わってくると思う。というより大幅に変わっていなければいけない。そのことを見据えて、今後計画を立てるときには、小さなところでエネルギーを節約するということではなく、当然省エネになるような設備を積極的に導入するというような大きな夢も入れて欲しい。その方が重要だと思っている。
委員	今ご意見をいろいろお聞きしながらこのエコアクションプランの構造を理解しているが、例えば電源を排出係数の小さいものに変えるというのはどこかに掲載しているか。何ページになるか。
事務局	10 ページにその他の取り組み項目があり、電気の地産地消について触れている。
委員	エコアクションプランには各取組の内容が並んでいて、それに対応する形で運用マニュアルのページが記載されている。これだけだと、それぞれにどんな目標をたてて、目標に対してどれくらい達成できたかということが分かりにくいかなと思う。先ほどの地産地消も文章で書いてあるのみでイメージしづらい。 一度エコアクションプラン自体もう一回考え直した方がいいかなと思う。 やはり取組に対してのフィードバックは本当に重要で、取組の結果をみんなで共有できた方がいい。各項目に一つずつくらいは、数値目標や結果を書くようにして、チェックするというようなことがいいかなと思う。 その時に小さな節約の話ではなく、前向きな内容という指摘もまさにその通りで、例えば市内の施設にこれだけ大東 BPS の電気を入れていますよってということが示せばいいと思う。 あと内部監査がやはり重要ということで、すごくいいなと思ったのはお互いアイデアが出てくること。ここでこうやっているんだったらうちもできるなとか。 今あることを減らしましょうだけだと良いアイデアは出てこないと思う。こういうこともできるよっていうようなことでアイデアを出しあえるやり方もある必要ではないかと思った。 このアクションプラン自体の見直しは予定されているか。
事務局	来年度になるのだが、事務事業編の中間見直しの予算要求をしている。予算が付けば事務事業編の改定を行い、エコアクションプランの改定もその時に行う。そしてまたもうひとつ踏み込んで来年度は区域施策編についても国の補助金を取りつつ、策定しようと考えている。今予算要求も行っている。

	あと、先ほどの数値的な目標と結果のフィードバックを行うべきと のご指摘だが、毎年温室効果ガス排出量の実績報告というものを集計 していて、今回の審議会には間に合わなかったが次回の審議会には昨 年度の実績報告、すべての施設の温室効果ガスの排出量を出したもの をご提示できるかなと思う。 2020 年度の実績でいうと、2013 年の基準年度からおおよそ 49% 温室効果ガスを削減しており、計画の数値については達成している。 その大きな要因は先ほど東野委員がおっしゃっていたグリーンパ ワー大東というバイオマス発電の電力を大東市内の公共施設に契約 したことによって、もともと関西電力と契約していた時の排出係数よ り非常に大きく下がり、目標を達成できている。 まだ集計の途中ではあるのだが、2020 年度の電気の使用量がコロ ナの影響を非常に受けている。冷房、暖房の使用が例えば保育所と言 えば CO2 の値を下げるために窓を全開にしてエアコンをつけている と聞いており、電気の使用量が非常に増えている。今の集計からする と温室効果ガス排出の面では再エネを活用しているので、そんなに大 きな悪い数字ではないのではないかと理解している。
委員	まさに大東市の持つポテンシャルだと思う。 説明のあった実績報告資料は確か毎年報告していただいているも のだと記憶しているが、それはそれで、今回その実績報告書とは別に このアクションプランでも目標と効果を具体的に位置づけると良い かと思う。 それともう一つ ZEB の話がある。今度市庁舎を建て替える計画が あると聞いているので、強く申し上げたいのだが、短期的にはお金が かかっても、ぜひ ZEB にして欲しい。最先端技術のものを導入すれ ばおそらく補助金も付きやすいと思う。うまく交渉すれば企業が導入 費用をディスカウントしてくれる可能性もある。 市内にバイオマスの発電所を持っているのだから、ランドマークで ある市庁舎も是非 ZEB に。
委員	2022 年度のアクションプランをここで報告というのはどういう意 味があるのか。というのは 2022 年度ももう半分が終わっているので 報告があっても今更どうしようもない。2023 年度にこうしますとい う話であれば、今ここで話をする意味があると思う。
事務局	今あるこのエコアクションプラン、確かに今年度の取組だが、本日い ただいたいろいろなご意見を来年度のエコアクションプランに反映で きるようにやっていきたいと思う。
委員	今回私も初めて事務事業編を見たが、よく作られていると思う。自

	動車については大阪府も切り替える前なので同じ内容だが、電気の排出係数の話もコラムに入っており、ZEBの話も最後の方で書かれている。2019年時点ではしっかり検討されていて、これに基づいて推進されていると思う。 ただこのエコアクションプランが委員の話にあったように位置づけが分かりにくかったのかなと思う。行政サイドでのこういうことをやっていますというご紹介だったのかなと思う。 同じ行政側からみれば、このエコアクションプランについては、一般職員がやる部分と、機械の整備という特定の職員がやる部分と混在している感じがしたので、そのあたりは切り分けた方が分かりやすいのかなと思う。呼びかけは一般の職員に向けてやっているものだと思うのでその部分だけ切り取ってもっと分かりやすくしてもいいのかなと思う。 あと見せ方で、頑張っているところはこれだけ頑張っているという風に見せるといいかなと思う。例えば最近大阪府でも、電動車の導入台数を部局ごとにリスト化して提示している。コピー用紙の削減もそうだが、ある施設では何%削減しており、またある施設では何%増えていますというような結果報告を。それこそフィードバックになる。各部局の頑張りが見えてくれば職員もやる気になると思う。
委員	やはり計画で内容が網羅されていたとしても、エコアクションプランとして別途出てくるとこちらも基本となってくるので出し方に工夫を。 それから先生の話で、他の案件にも言えることなのだが、審議会で今やっても次につなげることが難しいというタイミングがすごくある。例えば予算について。何か事業をやろうとなった時に予算要求の次期が終わっているとまた1年繰り越しになったりする。予算要求の前で、私達、審議会メンバーが意見を申し上げて環境部局の後押しになるっていうのが一番理想の姿だと思うので、ぜひそこまでのタイミングも考えていただけたらと思う。

議事5：その他

委員	大阪府からのお願いである。大阪府のCO2削減で取り組んでいく中で、各市や環境省でもゼロカーボンシティ宣言という形でやられているかと思うが、大東市はまだやられていないと思うので、ご検討いただきたい。大阪府の方で、ゼロカーボンシティ宣言の市町村の集まりも作り、情報共有したりして進めていきたいと思っているので是非と
----	--

	もご検討いただきたいと思います。
委員	恩智川クリーンリバープロジェクトにうちの学生が参加し、環境課の指導グループと一緒に住道駅前の川に GPS の信号を発信するプラスチックの模擬ごみを浮かべて川の表面の水の動きを見たところ、上流に向かって何回も行ったり来たりしていて、なかなか流れていかない。なので川というよりも大きな水たまりのようなもの。なかなか流れていかないところなんだということを学生が発表してくれると思うが是非お楽しみに。どういう風に流れるのかを動画で見せるようになっており、動画をスマホなどで表示できる仕組みになっているので是非ご覧いただきたい。
委員	GIS を使って調査をするということだが、GIS について教えて欲しい。
委員	GPS である。信号を発信する小さな発信機を入れたペットボトルの大きいようなものを百均で買い、シールしてそれを川の中に入れて浮かんでいる状態にする。どう流れていくんだと思ったら流れていかず、上にいたり下にいたりし、雨が降っていても上流側に進んだりするので意外であった。もう少し流れていっていると思っていた。
委員	潮の満ち引きがほぼ一緒である。大東市は水害の街だといわれたが、それが分かるくらいほぼ高低差がない。
委員	ゼロカーボンシティ宣言の話だが、是非お願いしたい。
事務局	その他の案件として、前回 4 月に審議会をして以来今回 10 月ということだが、前回議論させていただいた粗大ごみの有料化については、その後 6 月議会において市議会の方で議決をいただけたので広報 8 月号で特集記事として市民に広報させていただいた。今後については、具体的な部分については今詰めているところなので、詳細については広報誌の 1 月号ぐらいになると思うが、改めて市民の皆さまに広報させていただいて 7 月に実施できるように、周知を進めていきたいと思っているのでよろしくお願いしたい。 地球温暖化対策実行計画の区域施策編についても今後市として検討して参るので、その際はご議論いただけたらと思う。 本市の地下水の規制緩和についても今回は時間がないので次回お話しさせていただきたい。 最後になったが、恩智川クリーンリバープロジェクトについて、ビラをお配りした「清走中」というゲーム感覚でごみ拾いをするというのが、例年やっていたものにプラスアルファで今回させていただくメインイベントになっている。これについては事前申し込みになるが、それ以外の全体のクリーンリバープロジェクトについては予約は

	いらず、当日お越しいただいても参加できるような様々な内容で例年通りさせていただくので、お時間のある方はご参加いただきたくよろしくお願いしたい。 次回の審議会については、年明けの1月又は2月ぐらいに実施したく、時期等については、また、皆さまにお知らせするのでよろしくお願いしたい。
--	---

6 閉会

以上